

市長記者会見記録

日時：2023年7月7日（金）14時00分～14時40分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《新しい市役所本庁舎が完成しました！》

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。

本日1つ目の議題は、「新しい市役所本庁舎が完成しました！」となっております。

それでは、福田市長から、本議題について御説明いたします。市長、よろしくお願
いいたします。

【市長】 市役所本庁舎の完成について、報告させていただきます。お手元の資料を
御覧ください。

初めに、「1 本庁舎整備の経緯」ですが、新本庁舎は平成25年度に基本構想を策
定して以降、基本計画、基本・実施設計を経て、令和2年5月に新築工事に着手して
おりましたが、このたび令和5年6月に完成したものです。

「2 施設概要」ですが、延べ面積6万2,356.13平方メートル、階数は地下
2階・地上25階建てで、最高の高さは116.97メートルでございます。

次に、「3（※補記）今後のスケジュール」につきまして、7月8日、9日に市民
内覧会を開催いたします。こちらには多くの方に申込みをいただきまして、当選され
た方には、既に御案内をお送りしております。

内覧会の後、什器の搬入・設置等を行いまして、10月から順次、移転を行ってま
いります。また、第3庁舎等への移転を含め、全ての移転が完了するのは令和6年7
月を見込んでおります。

第2庁舎跡地広場についてですが、令和6年度末に整備が完了する予定です。

次に、「4 事業費の概要」につきましては、現時点での契約済み金額は約462億
円となっております。今後、周辺道路整備や什器調達などの発注をしてまいります
が、事業予定金額につきましては、令和元年に公表しております約470億円からは変更
ございません。

次に、お手元にお配りしておりますリーフレットを御覧ください。お開きいただき
まして、内側の左上、施設機能・階数構成を御覧ください。

新本庁舎は、25階建ての高層棟と、旧本庁舎を復元した3階建ての復元棟を、半

屋外のアトリウムでつなぐ構成としております。

1階から3階までの低層部に、情報プラザやコンビニ、カフェなどの施設を配置し、6階から21階までに行政機能、22階から24階までに議会機能を配置、25階には展望ロビーとスカイデッキを設けております。

次に、左下の防災・業務継続対策を御覧ください。

防災・業務継続対策として、屋上に緊急離着陸場を設置しているほか、天井落下等の二次被害を防ぐための執務室の無天井化、3階と4階の間に免震層を設けた中間階免震構造の採用、水害の影響を受けない4階以上への機械室の配置といった措置を講じております。

次に、中央のアトリウム・回廊デッキを御覧ください。

高層棟と復元棟を回廊デッキにより連結するとともに、ガラス屋根のかかる3層階吹き抜けの半屋外アトリウムを設け、にぎわいの創出を図るとともに、災害発生時には多目的防災スペースとして利用してまいります。

また、復元棟は昭和13年2月に竣工し、戦前・戦中・戦後を通じて川崎市の行政の中心を担ってきた旧本庁舎の一部を創建当時の姿で復元しております。2階には、旧本庁舎創建当時の市長室を復元した展示室を設け、川崎市の年表や川崎市映像アーカイブを見ることができるようになっているほか、1階には、旧本庁舎の歴史紹介映像や装飾品、松杭等を展示した展示室を設けています。

次に、右側、議会・展望フロアを御覧ください。

25階の展望ロビー・スカイデッキからは、市内及び東京・横浜方面を一望することができます。

23階の市議会議場は、国際天然木を使用したリブ材と耐候性鋼板を組み合わせた表情豊かな内装デザインとし、天井は、地震時の落下等による二次被害を防ぐため、軽くて強い膜天井としております。

こうした機能によりまして、災害発生時に災害対策活動の中核拠点となるだけでなく、川崎市の文化などの情報を発信しながら、にぎわいを創出し、市民の皆様に親しまれる庁舎となることを目指してまいります。

私からの説明は以上です。

【司会】 それでは、ただいまの議題に関する質疑応答に入ります。

なお、市政一般に関する質疑につきましては、この後、2つ目の議題の説明と質疑、さらに話題提供に関する説明が終わりましたら、改めてお受けいたします。

それでは、進行につきましては、幹事社各社の皆様、よろしく申し上げます。

【NHK】 幹事社、NHKです。

私たちが先ほど庁舎の中、見てきましたけれども、本当、様々な特徴とこだわりの詰め込まれた庁舎だなと感じましたが、市長から見て、改めてどのような庁舎が出来上がったと感じられていますか。

【市長】 やはり一番大きいところは、防災機能がしっかり充実できて、いざというときには、その中枢拠点としてなり得るものができたということですし、御覧になっていただいたとおり、1階はアトリウムのような形で、何か賑わいがつくれるような場所になりますし、それから第2庁舎壊しますと、あそこ広場になりますから、連続した、ある意味、広場、空地みたいなものができますから、そういった意味では、いろんなイベントだとか、そういったものができるようなエリアになるのではないかなと。ですから市役所、本当に業務でお越しになる方も、それ以外の方も、親しまれ、愛されるような庁舎になればいいなと思っております。

【NHK】 また今回、復元棟が、旧庁舎が復元されて、時計塔とか復元されましたけれども、そこに込められた思いは、どんなところでしょうか。

【市長】 いや、想像した以上によかったですね。やはり先ほどもお話ししましたけれども、戦前・戦中・戦後と、ずっとあの時計台を見て過ごされた方、すごく思い出深い方、たくさんいらっしゃる、あの姿を見て、よかったというふうに感想を述べられる方、とても多いので、川崎の歴史というものを感じていただける空間になっているのではないかなと思っております。

【NHK】 旧庁舎、時計塔含めて、庁舎が川崎市民にとって、どのような存在になってほしいなと思われませんか。

【市長】 市制100周年に、ちょうど間に合う形で完成いたしましたので、これからの新しい川崎の、これからの100年のシンボリックな建物になると思いますし、あの建物だけじゃなく、先ほど申し上げたような、少し皆さんから親しまれる、愛される空間、建物になっていくということを望んでおります。

【NHK】 ありがとうございます。

NHK、以上です。

【読売】 では、幹事社の読売新聞から何問か質問させていただきます。

7月8日と9日にある内覧会で、結構募集が多いということなんですけれども、現状どれくらいで、今後、その人数によっては追加で行う可能性があるのかどうかというお考えはいかがでしょうか。

【市長】 非常に関心が高くて、1,000名様を募集、市内在住の方ですね。募集し

たところ、2,166組、5,776名の方から応募をいただきました。そして当選された方は420組、1,089名ですので、倍率としては約5倍となっております。

当初1,000名というふうにしていたんですが、これほど大きな反響をいただいておりますので、もう一度、8月末、まだ日時全く決まっておられませんし、どういう方法でやるかというふうなものも、まだ決めておりませんが、何らかの方法で、また市民の皆さんに見ていただくような方法を、これからちょっと考えていきたいというふうに思っております。

【読売】 ありがとうございます。以上です。

【NHK】 各社、お願いします。

【時事】 時事通信です。

新しい庁舎で防災機能も高まるんですけども、これまでかなりタコ足だったので、1か所、2か所に集まるということで、その辺の効果というのは、どのように考えられていますでしょうか。

【市長】 それが非常に大きくて、今、一番遠いところだと、健康福祉局がソリッドスクエアのほうで、線路を渡った向こうということで、いざ災害時だとかといったときに非常に不便だなというふうに感じているので、はっきり言えば、一刻も早く一緒に入りたいという思いが強いです。

御覧いただいたかもしれませんが、いわゆる防災機能を有する階では、パーティションで全部外れて、1部屋に大部屋になることができまして、そういった意味では、医療調整本部だとかというのが立ち上がったときに、危機管理本部などと同じフロアで一体的に運用ができますので、そういった意味では、本当にコントロールセンターとして役割を担っていくなというふうに思っています。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。

それでは、こちらで1つ目の議題を終了いたします。関係者についても退室をさせていただきます。

《川崎市ブランドメッセージ絵本「かわさき いろいろ 5・7・5」を制作しました～新しい作品を一般公募します！～》

【司会】 お待たせいたしました。続きまして2つ目の議題、「川崎市ブランドメッセージデジタル絵本「かわさき いろいろ 5・7・5」を制作しました～新しい作品を一般公募します！！～」について、福田市長から御説明いたします。市長、よろしくをお願いします。

【市長】 それでは、川崎ブランドメッセージデジタル絵本「かわさき いろいろ

5・7・5」について説明いたします。

このたび、「かわさきのいろいろ」をテーマに、川崎市にゆかりのある著名人など8人の方に5・7・5を詠んでいただきまして、その言葉にイラストを添えたデジタル絵本を作成し、公開をいたしました。

このデジタル絵本は、川崎市ブランドメッセージ「C o l o r s , F u t u r e !
いろいろって、未来。」が表す本市の価値である多様性をより多くの方に共感を持って受け止めてもらい、市制100周年を契機に、さらに川崎を好きになってもらうため制作したものでございます。

こちらが公開したデジタル絵本です。

イラストレーター、f a n c o m iさんのすてきなイラストを添えて、8人の5・7・5を掲載しておりますが、一つ一つの作品に、川崎のよいところ、好きなどころ、このまちならではの魅力があふれております。

この絵本の公開と併せて、本日より、皆様から5・7・5の作品を公募いたします。

今回は「次の100年に向けて」をテーマとし、川崎らしさを含む未来への希望を感じられる作品を募集します。川崎市を好きな方なら、どなたでも応募いただけますので、ぜひ多くの皆様に参加をしていただきたいと思います。

なお、選考した10作品程度を、新たにデジタル絵本として制作し、公開する予定です。

川崎の魅力や好きなどころを皆様と共有することで、来る市制100周年に向けて、地域への愛着と誇りを醸成してまいります。

私からは以上です。

【司会】 それでは、ただいま御説明いたしました2つ目の議題についての質疑応答に入ります。進行につきましては、幹事社の皆様、よろしく願いいたします。

【NHK】 では、幹事社、NHKです。

一般公募、これからされるということですが、どのような方々に公募してきてもらいたいなというふうに思われていますか。

【市長】 本当に老若男女の全ての川崎好きの方であれば、市内でも市外でも結構です。多くの方々に詠んでいただきたいなと思っています。

【NHK】 それは市長御自身がお気に入りの、これは詠んでもらいたいなみたいな一句って、あったりするんですか。

【市長】 そうですね。どれも本当にらしいなという、各界の皆さんから特徴あるものを作っていたいただいたので、どれが一番ということはないんですが、本当にどれも好

きな感じですね。私も詠みました。はい。

【NHK】 市長のも入っているんですか。

【市長】 入っているんじゃないくて、後書きみたいところに書いてあるんですね。

【NHK】 へえ。

NHK、以上です。

【読売】 読売新聞から質問させていただきます。

これは、そもそもどういう経緯で、今回、制作に至って、公募するようになったかという、きっかけの部分をお願いします。

【市長】 御案内の、このブランドロゴですね。ロゴについては、かなり広く認知されておりまして、調査結果でも、ロゴ認知度87.4%と、正直、ほかの都市では見られない認知度を持っている一方で、ステートメントの認知度というふうなのは、実はそれほど高くない、37.8%ということでありまして、このステートメントの表現する川崎の価値、いわゆる多様性から広がる可能性について、市民の皆さんにより共感を持って受け止めてもらいたいというふうに考えておりまして、ぜひ市制100周年を機に、新しい川崎を一緒につくっていきたいというふうな思いで、こういった形にさせていただきました。

【読売】 これ、具体的に制作し終わった後の周知のやり方としては、どのようにしていく方針ですか。

【市長】 そうですね。いろんな人に、デジタル絵本の形になっているんで、広報をうまくどうやって、やっていくかなというのが大きな課題になっていくかと思うんですけど、担当から何かありますか。

【総務企画局】 シティプロモーション推進室です。よろしく願いいたします。

デジタル絵本ということで、川崎に限らず、多くの方に御覧いただけるものにしていきたいと思っておりますので、例えば、SNSですとか、そういったものも活用しながら、広く周知を図っていきたいと思っておりますのでございます。

以上でございます。

【読売】 分かりました。ありがとうございます。

【東京】 すいません。東京新聞なんですけど。先ほどちらっと見たんですけど、市長が詠まれた5・7・5を読み上げていただけますでしょうか。

【市長】 はい。「カラフルな 7区のまちに 咲く笑顔」と詠みました。

【東京】 その心は。

【市長】 やっぱり7区それぞれの多彩な色を持っている、虹のようなまちだという

ふうに思っています、そこに皆さんの笑顔がそれぞれに素晴らしいという、川崎の鮮やかに咲く姿というのを表現してみました。

【東京】 どのぐらい考えられたんでしょう。

【市長】 意外と、取り組むまでには時間かかったんですけど、考え始めたら意外と早かったという。キーワードっぽい、自分の好きなキーワードを考えていたら、何となく収まった感じはあります。結構詠みました。10句ぐらい詠んだと思うんですけど、そのぐらいで、そのうちの一番いいのを、みんなで、どう？って言いながら決めました。

【東京】 ほかにはどんなのが。

【市長】 ちょっと覚えてないですね。

【東京】 ちょっと、昨日、予告しちゃったんで、今日、ちょっと攻めてみようかと。

【市長】 ちょっと今、記憶にパッと出てきませんが。

【東京】 はい。すいません。

【時事】 この5・7・5に、あえてしたというのは。川柳でも俳句でもどっちでもいいという心ですか。

【市長】 5・7・5って、非常に、考えたとき、これを、発想を思いついたときより今のほうが、5・7・5、何か、はやっているような気がするんですけども、老若男女、結構詠まれる方が多いので、1度、いつだったか川柳でやりましたよね。あのときいつでしたっけ。

【総務企画局】 150万人、人口を突破したときに、川柳という形で募集をさせていただきまして、その際も、かなり多くの反響ございましたので、今回、川柳という形にこだわらず、5・7・5という言葉で表現していただきたいということで募集いたします。

以上でございます。

【朝日】 すいません。朝日新聞でございます。

お好きな俳人やお好きな句があれば、何か、もしあれば教えていただければ。

【市長】 これに関係なくですか。

【朝日】 関係なくです。

【市長】 ちょっと。

【朝日】 なければ、別に。

【市長】 特に。

【朝日】 特に。そうですか。

【市長】 文化レベルの低さが露呈してしまうような感じでした。

【朝日】 分かりました。

【毎日】 すいません、毎日です。これはそもそも、どういう、どなたのアイデアで、目的としては。

【市長】 いや、これはシティプロモーション推進室からの発想でありまして、より多くの人たちに、この100周年を機会に巻き込む方法はないのかねというふうな議論がなされていて、そこから始まったものだというふうに思います。

【毎日】 いつ頃決定に至ったんですたっけ。これやりましょうというのは。

【市長】 よろしいですか。

【総務企画局】 昨年度からこの企画スタートいたしまして、その前年度から、令和4年度事業として何かできないかということで考えておりまして、具体的には、令和4年度に入ってから決定してまいりました。

以上でございます。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。

それでは、2つ目の議題をこちらで終了させていただきます。関係者のほうも退室をさせていただきます。

【話題提供】

《富川世界B-boy大会開会式に出席するため、市長が大韓民国・富川市を訪問します！》

【司会】 お待たせをいたしました。次に、話題提供といたしまして、「富川世界B-boy大会開会式に出席するため、市長が大韓民国・富川市を訪問します！」となっております。

それでは、まず福田市長から、本話題提供について御説明いたします。よろしくお願いいたします。

【市長】 大韓民国・富川市への川崎市代表団訪問について、話題提供させていただきます。

本市と富川市は平成8年に友好都市提携を結び、これまで文化・芸術・スポーツなど幅広い分野で交流を行ってまいりました。

昨年11月には、チョ・ヨンイク富川市長が川崎市に来訪し、今後の両市の交流に向けた意見交換を行ったところです。

このたびはチョ・ヨンイク富川市長から、全世界からトップダンサーが参加するハイレベルな国際コンテストである第8回富川世界B-boy大会への招待があり、7月21日から

23日の日程で富川市を訪問いたします。ISF、インターナショナル・ストリート・フェスティバル・KAWASAKIを開催するなど、若者文化を推進している本市として、富川世界Boy大会の視察を通じ、今後の若者文化を生かしたまちづくりの参考とするとともに、富川市との交流を深めてまいりたいと考えております。

今回の滞在では、Boy大会への開幕式出席や大会視察のほか、石川ISFKASAWAKI実行委員長と共にチョ富川市長を訪問し、意見交換を行う予定です。

なお、本市と富川市との交流の詳細につきましては、次ページの資料を御覧いただければと思います。

私からは以上です。

【司会】 それでは、ただいま御説明しました件と市政一般に関する質疑を併せてお受けいたします。進行につきましては、幹事社各社の皆様、改めまして、よろしくお願いいたします。

【NHK】 それでは、幹事社、NHKです。

今の話題提供に関してお伺いしたいんですけども、これ、何で川崎と富川は、どういうつながりなんですか。

【市長】 一番最初は民間ベースから交流がたしか始まったというふうに。いいですか。最初のきっかけについて。姉妹都市を結んだ経緯のことについてですか。

【NHK】 そうです。

【総務企画局】 総務企画局SDGs・国際連携推進担当です。

お手元資料の2面ですね。裏面のほうを御覧いただきまして、富川市との主な交流についてという記載がございます。こちらは平成8年に、それまで大学、商店街、市民との相互訪問による交流を、こちらのほうを受けまして、平成8年、友好都市の提携をしまして、それ以来、友好都市として交流をさせていただいているところでございます。

以上でございます。

【NHK】 なるほど。市長の訪問によって、川崎市にとっては、どんなメリットを得られるというふうに、今、お考えで、行かれるということなんですか。

【市長】 実は平成30年まで、何回か中学校の若者交流をしっかりとやっていこうというふうなことになりまして、続けてきたんですけども、令和元年で、日韓関係の悪化を受けて、交流は残念ながら途絶えていました。昨年、チョ・ヨンイク市長が来訪されて、いよいよ交流を再開したいというふうなお話がありました。

私はその際に、令和元年の当時も、中止になったときに申し上げたんですが、とに

かく国際情勢がどういう形になったときにも、自治体同士の交流は続けるべきだというふうなのを繰り返し伝えておりました。そのことについて、昨年11月に市長がお見えになったときに、改めて、そこを確認させてくれというふうな話をして、ぜひ、国がいかなるときであっても、自治体交流はやっていこうという話になりました。ついでには、両方、富川も非常にブレイクダンスで有名な都市でして、川崎市も日本では聖地と言われている。ここのダンサー交流もそうだし、実際には、もうかなり深まっております。そういう意味で、ぜひ、川崎の皆さん、来てくださいというふうな話がありました。

そういった意味で、私が今回、お邪魔するということですので、この後、8月6日、7日あたりだと思いますが、川崎市の子どもたちがサッカー交流のために、川崎市の選抜チームが富川に赴きまして、富川の富川FCと交流するというふうな形で、いよいよ姉妹都市交流というのが、もう一度、復活したという意味では、非常に意義深いというふうに思っております。

【NHK】 今のお話は、国の情勢がどういう状態であっても自治体間交流を続けることで、川崎にはどういふ。

【市長】 やっぱいろんな文化的な交流というふうなのは、相互訪問だとか、あるいは一時期、私たち、自治体職員交流というふうなのをやっている、そこであちら側から学ぶものもあるし、こちらから学んでもらう部分というふうなものも、そういったメリットもありましたし、富川市とは行政同士というよりも、市民同士の結びつきが非常に強くて、経緯が、元からそこから始まったものですから、そういった意味では、文化、スポーツ、あらゆる面で交流が続いていて、非常にお互いメリットを享受しているというふうに考えております。

【市政一般】

《川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例について》

【NHK】 分かりました。ありがとうございます。

あと、ごめんなさい、市政一般で1件だけ。

7月1日に、差別のない人権尊重のまちづくり条例が施行されてから丸3年になります。それで、これまでの数値等、多分把握されていると思うんですけども、市長御自身から見て、この3年の条例の成果や課題に対して、市長御自身、どのように受け止められていますか。

【市長】 条例施行してから、いわゆる明確な条例違反となるような、そういった行為というふうなのはなくなったというふうに思いますけれども、残念ながらインター

ネットでは、まだ誹謗中傷的なものというふうなのがあふれている状況にもありますので、こういったところは、まだまだ課題だというふうに思っています。

条例に抵触しないからといって何か許されるというふうな話ではなく、あらゆる差別、偏見というものをしっかりなくしていくという意義というふうなのは、改めて、みんなで確認して、そういった世界観をつくっていかなくちゃいけないなというふうに改めて思っています。

【NHK】 今後の運用に関しては、どのようにしていきたいというふうに思っていますか。

【市長】 この条例の運用というのは、やっぱりしっかり厳格にやっていくことというのが条例の信頼性に関わる場所だと思いますので、拡大解釈もせず、縮小解釈もせずというふうな形で厳格に運用していくことが大事だというふうに思っております。

【NHK】 インターネット上の削除に関しては、なかなか追いついていかない部分、15件しか、まだ削除されていないというところもあると思うんで、ちょっと見ても、やっぱりもどかしい部分があるかなというふうに感じているんですけども、その辺り、もうちょっと後押しできるような何か策というのは。

【市長】 そうですね。非常に大きな課題だとは思っているんですが、本当にインターネット上という性質という観点から見ると、できることというのは非常に難しい部分というのがたくさんあって、課題だと思っていますが、この条例だけで全てを解決することというのは、なかなか難しいので、引き続き、いつも言っていることですが、条例でもって全てがなくなるわけではないので、粘り強い取組というのが必要かなと思っております。

【NHK】 ありがとうございます。

NHK、以上です。

《富川世界B-boy大会開会式に出席するため、市長が大韓民国・富川市を訪問します！》

【読売】 幹事社の読売新聞から質問させていただきます。

すいません。話題提供で、まず1点、質問なんですけれども、これまで交流が続けてきて、相手方のチョ市長は、川崎市のことをどのように評価しているとか、どういふところがいいとかというのは、何かおっしゃったりというのはあつたりするんですか。

【市長】 これまでも何代かの、私、市長ともお付き合いさせていただいておりますけれども、基本的に場所が川崎市と似たような地理的な位置にありまして、要は、ソ

ウルと仁川のちょうど真ん中にあるというふうな形でいくと、東京と横浜の間にあるというような、そういった地理的に似通った部分もありますし、かつ、文化的にも、先ほど申し上げたような、近年はブレイクダンスだとか、ああいうソフトのところにも非常にコンテンツに力を入れているといったところも、まさに私たちと非常によく似ているということもありまして、そういった意味では、お互い学び合うことというのが非常に大きいと、多いというふうに思っております。

《マイナンバーカードの自主返納について》

【読売】 ありがとうございます。

話題を変えて、それでマイナンバーカードの件なんですけれども、結構ほかの自治体とかでは返納されている方が相次いでいるというニュースもあったんですけど、川崎市では、市民が結構返納に訪れているとか、そういう傾向的なものというのはあたりしきすでしょうか。

【市長】 川崎市に返納された方、5月が11件いらっしやったんですけども、6月、42件ということで、増えているということなので、そういった意味で、不安感とか、ちょっと不信感だとかの表れかなというふうに思っていますが、若干誤解があるんじゃないかなと思うんですよね。マイナンバーカードを返納すると、いわゆる、ひもづけから外される、そこから何ていうか、もうひもつかないんだというふうに誤解されているから返納されている部分もあるんじゃないかなという気持ちもあります。だから、ちゃんとうまく伝わっていないんじゃないかなと。

ですから、返したところでマイナンバーのひもづけられているものというふうなのはなくなるわけではないので、そこが周知されてないことによって返納すると。でも、また、もしかしたら、不便だから手続き直すということになりますと、手数料もかかることになるので、ちょっとその辺りは政府としても何か説明必要んじゃないかなという。

お気持ち分かるんです。こんな、大丈夫かみたいな、市民感情としては分かるんですけど、そのところがちゃんと説明し切れてないのかなというふうに思います。

【読売】 ありがとうございます。

【NHK】 各社さん、お願いします。

《富川世界B-boy大会開会式に出席するため、市長が大韓民国・富川市を訪問します！》

【東京】 すいません、東京新聞です。

富川市との交流の件なんですけれども、富川市に市長が行かれるの、2016年以

来なのかなというふうに思うのですが、市長の外遊としてはいつ以来になるんでしょうか。

【市長】 分かりますか。

【総務企画局】 SDGs・国際連携推進担当でございます。

市長の海外訪問につきましては、令和元年のベトナム・ダナン市に伺った際の訪問が最後になろうかと思えます。

【市長】 令和元年。

【総務企画局】 はい。ベトナム・ダナン市のほうにですね。

【tvk】 何月でしょうか。

【総務企画局】 ベトナム・ダナン市に伺ったのは、すいません、後ほど説明させていただきます。

【市長】 すいません。たしか今頃だったような気もするんですけどね。正確には、また。

【東京】 あと今回、石川様も一緒に行かれるということなんですけど、現役の若いダンサー、有名な方も川崎市にいると思うんですけど、そういう子たちを連れていったりというのは、今回はないんですか。

【市長】 ちょっと、私は確認していませんけど、大会に出場するメンバーもいるんですけど。

【市民文化局】 市民スポーツ室の若者文化推進担当です。

今回、富川のBBCにつきましては、まずボニー&クライドという男女ペアのバトルに、亜実さん、オリンピック候補にもなっている、湯浅亜実さんが出場されます。それと、クルーバトル、4対4のクルーバトルなんですけど、こちらにグッドフットというチームが出場しまして、このグッドフットの4人のうち2名が川崎市に住まわれている方という形でございます。

以上です。

【東京】 ありがとうございます。

【毎日】 市長の外遊としては、コロナ禍が始まってからは初めてですか。

【市長】 そうですね。はい。

《川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例について》

【日経】 よろしいでしょうか。日経新聞です。

先ほどの質問でもありましたけれども、ヘイトスピーチ条例施行されて3年。ただ、ヘイトスピーチ条例だけではなく、川崎市、外国人の国民健康保険適用、市営住宅の

国籍条項撤廃、今では当たり前のことを随分と早くからやってきました。そこら辺に自負といいますか、思いを教えてください。

【市長】 そうですね。やはり何ていいますか、自治体として、この多様性というものの価値というのを非常に大事にしてきた自治体でありますし、特に私は誇らしいなと思っているのは、外国人市民代表者会議といった取組というふうなのは、全国的にも非常に先駆的な取組だと思います。要は住民の外国籍の市民の方たちが、要求より参加へというふうな、何か制度を求めていくということだけではなくて、自らが参加していくということを合い言葉に、いろんな政策提言だとか、具体的な取組というふうなのを、外国籍市民の方、自らが作り出しているというふうなのは、まさに川崎らしい取組だと思いますし、こういった価値というふうなのを、これからも、僕ももっと全国的に、もっと広がっていけばいいんじゃないかなというふうに思っておりますが、そういったモデルとなれるように、これからもそういった取組やっていきたいというふうに思っています。

【日経】 ありがとうございます。

【朝日】 すいません。私もヘイトスピーチ禁止条例について。刑事罰を盛り込んだ先進的な条例だったんですけども、その後、各地でヘイトスピーチを禁止する条例の制定、もしくはその準備の動きがあるんですが、刑事罰の適用については、検討中のところもあると思いますけれども、実現したところは、まだないので、その辺りの事情について、市長としてはどういう分析をされていますでしょうか。

【市長】 最後のあたり、ごめんなさい。

【朝日】 市長として、どういうふうに分析というか、追随している自治体がないことについて。

【市長】 法律のところでも、いわゆる地域の実情に応じて自治体が取り組む努力をしていかなければならないというふうな規定にのっとって、私たちも地域の実情に合わせた条例をつくっているんで、この件に関しては、各都市の実情というのが、それぞれに多分違うんじゃないかというふうに思うんですね。私たちが条例をつくる、その背景というのは、確固たる立法事実がありましたので、そういった意味で、より厳しくというふうな思いもあったものですから、そういった意味では、各自治体というふうなのは、まさに地域の実情に応じた取組をされているのではないかなというふうに考えております。

【朝日】 ありがとうございます。

＜富川世界B-boy大会開会式に出席するため、市長が大韓民国・富川市を訪問します！

➤

【総務企画局】 申し訳ありません。SDGs・国際連携推進担当でございますが、先ほど御質問いただきました令和元年のベトナム・ダナン市の訪問でございますけれども、7月でございます。よろしくお願いたします。

【司会】 ほかに質問ございますでしょうか。

【朝日】 来年、パリオリンピックで、川崎ゆかりの選手が、ダンスですね。オリンピック出た場合は、パリの御訪問も御検討されるでしょうか。

【市長】 いや、私は行ってもしようがないんじゃないかと思うので、全力で川崎からエールを送りたいと思います。

【朝日】 分かりました。

【司会】 質問よろしかったでしょうか。

それでは、以上をもちまして、本日の市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355